

開催展望

74周年以来の地元記念制覇へ エースの真杉匠が躍動!

宇都宮競輪開設 77周年記念 第二回「レジェンド神山雄二郎カップ(GⅢ)」が5月30日(土)〜6月2日(火)の4日間に渡り宇都宮競輪場で開催される。

S級S班から参戦は地元・真杉匠を始め吉田拓矢、寺崎浩平、南修二の4名。

地元からは真杉匠の他に神山拓也、坂井洋、杉浦侑吾がS級1班として参戦。そしてS級2班には江連和洋、真崎新太郎、福田稔希が参戦。総勢7名で地元の牙城を守る。

真杉匠は、ウイナーズカップ(GⅡ)で惜しくも準優勝。吉田拓矢の先行を利用して優勝目前という絶好の展開を迎えたが、深谷知広のまくりに屈した。続く豊橋記念(GⅢ)では、二次予選でまさかの失格。ここまで今期は優勝がない状況だ。しかし、地元記念はまだ時間がある。万全の仕上げを施し、最高の状態で地元戦に臨みたいところだ。

S級S班に返り咲いた吉田拓矢は、上々のスタートを切った。年始の立川記念(GⅢ)、高松記念(GⅢ)in小松島ではいずれも準優勝。続く静岡記念(GⅢ)で待望の優勝を飾った。今開催も真杉との連携となるだけに、その前後の並びに注目したい。

函館オールスター競輪(GⅠ)を制し、S級S班の仲間入りを果たした寺崎浩平。選手層の厚い近畿地区を代表する機動型だ。熊本競輪場で行われた全日本選抜競輪(GⅠ)では、同県の脇

本雄太の前で果敢に先行。それに応えるように脇本が番手まくりで優勝を飾った。今回は自らの優勝のため、全開の仕掛けになる。

デビュー22年半、44歳にして初のS級S班となった南修二。しかし、S班昇格後は苦戦が続いている。勝ち上がりで失敗するケースも多く、納得のいく結果を残せていない。今回は同じS班の寺崎がいるが、準決勝で連携できるかは微妙なところだ。決勝まで勝ち上がれば、寺崎の番手が巡ってくる可能性もある。

他では、2月の大垣記念(GⅢ)を制し、3月の防府競輪ウイナーズカップ(GⅡ)決勝で8着となった菅田老道、S級S班経験者の守澤太志ら東北勢が参戦。

南関勢からは、昨年S級S班を1年間務めた岩本俊介、昨年の第1回大会覇者である小原太樹、そして完全復調を目指す松井宏佑が名を連ねる。

中部・近畿勢も実力者が揃い、二〇二〇年宇都宮ワンダーランドカップ(GⅢ)覇者の浅井康太をはじめ、村上博幸、三谷竜生、さらに2班ながら110点超の高得点を誇る稲川翔と充実の布陣。

加えて、GⅠ制覇まであと二歩に迫る中国・四国からは松本貴治、48歳にしてなおタイトル獲得に意欲を燃やす九州地区の荒井崇博も参戦する。

このように豪華メンバーが揃い、第二回「レジェンド神山雄二郎カップ(GⅢ)」は激戦必至の様相を呈している。

開設77周年記念競輪 出場予定選手

級別	氏名	年齢	所属	期別	前4ヶ月得点
SS	吉田 拓矢	31	茨城	107	119.25
SS	真杉 匠	27	栃木	113	120.33
SS	寺崎 浩平	32	福井	117	117.08
SS	南 修二	44	大阪	88	115.25
S1	佐藤 友和	43	岩手	88	111.28
S1	大槻 寛徳	47	宮城	85	110.88
S1	菅田 孝道	40	秋田	91	116.00
S1	守澤 太志	40	秋田	96	110.53
S1	佐々木 雄一	46	福島	83	103.00
S1	渡部 幸訓	42	福島	89	115.60
S1	佐藤 一伸	38	茨城	94	107.88
S1	戸澤 大輔	44	茨城	90	109.94
S1	神山 拓也	39	栃木	91	109.17
S1	坂井 洋	31	栃木	115	110.10
S1	杉浦 侑吾	31	栃木	115	110.81
S1	岩本 俊介	42	千葉	94	109.92
S1	根田 空史	37	千葉	94	111.07
S1	小原 太樹	37	神奈川	95	112.35
S1	寺崎 浩平	40	神奈川	103	109.05
S1	松井 宏佑	33	神奈川	113	107.50
S1	佐々木 也	31	神奈川	117	109.75
S1	岡本 総	38	愛知	105	109.63
S1	藤嶋 洋	23	愛知	121	103.35
S1	浅井 康太	41	三重	90	110.40
S1	脇本 勇希	27	福井	115	107.07
S1	村上 博幸	47	京都	86	114.00
S1	三谷 竜生	38	奈良	101	108.90
S1	岡崎 智哉	40	大阪	96	109.58
S1	谷 和也	27	大阪	115	106.94
S1	片岡 迪之	39	岡山	93	107.55
S1	西田 優大	28	広島	123	108.46
S1	桑原 大志	50	山口	80	108.61
S1	湊 聖二	49	徳島	86	101.20
S1	山形 一寛	37	徳島	96	108.33
S1	松本 貴治	32	愛媛	111	114.75
S1	小川 勇介	41	福岡	90	109.94
S1	林 大悟	31	福岡	109	105.93
S1	荒井 崇博	48	熊本	82	116.54
S1	中川 誠一郎	46	熊本	85	103.63
S1	松岡 辰泰	29	熊本	117	108.06
S2	坂本 貴史	37	青森	94	99.63
S2	磯島 成介	26	青森	115	104.71
S2	立花 昌也	27	青森	123	95.76
S2	山崎 将幸	38	宮城	92	103.21
S2	三浦 翔大	35	宮城	98	93.60
S2	相澤 政宏	47	宮城	99	94.00
S2	木村 佑太	24	宮城	119	102.31
S2	杉山 悠也	42	秋田	89	96.61
S2	渡邊 一成	42	福島	88	104.47
S2	金澤 竜二	40	福島	91	91.15
S2	比佐 宝太	25	福島	121	93.71
S2	武田 豊樹	52	茨城	88	102.84
S2	江連 和洋	54	栃木	76	96.85
S2	真崎 新太郎	47	栃木	85	100.43
S2	福田 稔希	23	栃木	125	106.10
S2	小林 潤二	53	群馬	75	100.27
S2	藤田 幸希	27	群馬	123	107.63
S2	片折 亮太	38	埼玉	92	92.86
S2	土屋 社登	39	埼玉	101	102.15
S2	熊崎 麻人	26	埼玉	123	100.05
S2	柿本 大貴	30	東京	113	93.53
S2	鈴木 薫	27	東京	115	100.50
S2	寺沼 拓摩	27	東京	115	103.25
S2	上原 龍	41	長野	95	95.46
S2	中嶋 宣成	36	長野	113	98.30
S2	海老根 恵太	48	千葉	86	102.43
S2	高橋 雅之	43	千葉	90	96.55
S2	山本 紳貴	41	千葉	107	96.85
S2	原田 真太	29	千葉	115	100.66
S2	小島 歩	36	神奈川	97	96.64
S2	堀内 俊介	36	神奈川	107	97.92
S2	渡邊 晴智	52	静岡	73	100.46
S2	菅原 裕太	34	静岡	100	103.55
S2	内山 雅貴	31	静岡	113	97.07
S2	神尾 敬冬	26	静岡	123	92.62
S2	竹内 雄作	38	岐阜	99	98.56
S2	横関 裕樹	38	岐阜	99	102.08
S2	伊藤 裕貴	34	三重	100	100.00
S2	笹倉 慎也	40	富山	91	92.46
S2	小嶋 敬二	56	石川	74	95.46
S2	小松原 正登	27	福井	117	98.50
S2	市田 龍生都	24	福井	127	111.33
S2	稲垣 裕之	48	京都	86	96.23
S2	佐山 寛明	38	奈良	113	99.00
S2	藤田 勝也	37	和歌山	94	101.00
S2	稲毛 健太	36	和歌山	97	101.92
S2	稲川 翔	41	大阪	90	112.60
S2	菊谷 慎一	41	大阪	90	99.00
S2	山本 直	33	岡山	101	100.25
S2	大槻 大介	30	岡山	119	94.80
S2	米崎 正介	34	岡山	119	97.10
S2	増原 正人	43	広島	98	98.72
S2	渡口 勝成	28	山口	119	100.87
S2	池田 豪昭	44	香川	90	95.43
S2	福島 武士	40	香川	96	98.78
S2	上野 雅彦	24	香川	119	95.63
S2	栗田 貴徳	42	愛媛	93	93.16
S2	近藤 翔馬	28	愛媛	119	98.93
S2	桑原 亮	41	福岡	91	97.15
S2	津村 次次郎	34	福岡	101	94.47
S2	渡邊 豪大	36	福岡	107	108.17
S2	山口 貴弘	42	佐賀	92	100.93
S2	成松 春樹	40	佐賀	93	96.78
S2	青柳 靖起	26	佐賀	117	103.44
S2	西田 将士	42	長崎	105	98.68
S2	瀬戸 栄作	32	長崎	109	97.76
S2	田中 崇平	36	熊本	97	98.14
S2	松尾 勇希	27	熊本	115	91.47

※競走成績は令和8年3月30日現在のデータです。

負けてられない!地元レーサーズ!!

SS 栃木・113期 **真杉 匠**

地元のS級S班真杉匠は、昨年の同大会で準決勝にて無念の失格。途中欠場を余儀なくされた。しかし、2023年の宇都宮記念(GⅢ)ワンダーランドカップで優勝、さらに翌年の共同通信杯(GⅡ)も制しており、地元での実績は申し分ない。今期はなかなか波に乗り切れない状況が続いているものの、地元記念となれば話は別。後半戦に向けて勢いをつける意味でも、ここは重要な一戦となる。

S1 栃木・91期 **神山 拓弥**

神山拓弥は神山雄一郎の弟子だけに、この大会へ懸ける思いはひときわ強い。昨年の同大会では決勝に進出するも、結果は5着と悔しさの残る内容となった。地元でのF1戦では安定して好走しているだけに、GⅢの舞台でもその実力を発揮したいところだ。地元でのムードメーカーであり、まとめ役としての存在感も大きい。地元勢の結束を力に変え、今大会での好走を誓う。

S1 栃木・115期 **坂井 洋**

坂井洋にとって、地元記念のタイトルはまさに喉から手が出るほど欲しい熱帯だ。アマチュア時代から輝かしい実績を積み重ねてきた実力派であり、そのルックスも相まって注目度の高いレーサーでもある。昨年の同大会では決勝3着と、あと一歩で優勝に届くところまで迫った。だからこそ、今年にける思いは一層強い。高校時代から走り慣れた宇都宮バンクの特徴や仕掛けところは熟知しており、アドバンテージは十分。狙うはもちろん優勝のみ。悲願の地元記念制覇へ、万全の態勢で挑む。

S1 栃木・115期 **杉浦 侑吾**

杉浦侑吾は2025年10月に愛知支部から栃木支部へ移籍。移籍後、初めて地元記念を迎える。地元戦としては今年の元日開催に出場しているが、その時は準決勝敗退という悔しい結果に終わっただけに、今大会は雪辱を期す舞台となる。もともと輪昇屈指の機動力を誇るだけに、その持ち味を存分に発揮し、何としても決勝進出を果たしたいところ。決勝では真杉や神山との連携実現にも期待がかかる。

S2 栃木・76期 **江連 和洋**

2021年の京王閣日本選手権で、49歳にして初のGⅠ出場(補参参戦は除く)を果たした「運味き」の地元ベテラン。54歳となった現在もなおS級で戦い続ける姿は、まさに立派の一言に尽きる。地元戦への出場は、1月31日初日のF1戦以来。安定した実力を持っており、その時は2日目からの補参参戦ながら、連続2着と結果を残し、しっかりと車券に貢献してみせた。年齢を感じさせない走り、S級でも十分に勝負できる脚力を維持している点は特筆すべきだ。豊富な経験と確かな実力を武器に、今回の地元記念でも存在感を示したいところだ。

S2 栃木・85期 **真崎 新太郎**

真崎新太郎は2025年後期に一度A級へ降級するも、わずか半年でS級へ返り咲く。さらに来期のS級維持も決めており、安定した実力を持っており、今期は競走得点100点超え。チャンスは確実にモノにする勝負強さが光る内容だ。地元戦ということもあり、番組面でも大きく不利になることは考えにくい。結果を積み重ね、さらなる上位戦線へ——。地元の声援を背に、一つでも高いステージを目指す走りに期待がかかる。

S2 栃木・125期 **福田 稔希**

福田稔希は125期の地元期待を背負う新鋭レーサー。2025年8月30日にS級へ特別昇級を果たした実力派で、将来性の高さは折り紙付きだ。レース運びは常に積極果敢で、自ら主導権を取りに行くスタイルが持ち味。初めての地元記念出場となれば、気持ちの入り方も一段と違うはずだ。相手は上位陣でも臆する必要はない。思い切った仕掛けて真っ向勝負に挑み、競輪ファンの記憶に残る走りを見せてほしい。

